

通信文化新報

サンタが街にやってきました



フィンランド政府公認のサンタクロースがクリスマスを前にした昨年十二月十七、十八日、熊本市と仙台市にやって来た。サンタにあてたはがきが特に多かった都道府県(人口比)を訪れる日本・フィンランドサンタクロース協会の「サンタさんへ手紙を書こう」の企画で、今回は熊本県と宮城県が選ばれた。

★熊本城の一口城主に 熊本市

十七日、熊本城を訪れたサンタは、クリスマスプレゼントとして、市の復元整備基金に二万円を寄付し、「一口城主」となった。御門横で申込書にサインした後、天守閣で待っていた幸山政史市長から城主証を手渡された。

★園児が歓迎の合唱 仙台市

十八日夜には仙台市のSEND AI光のページェントを訪問。特設ステージで市内の三幼稚園の園児約百人がクリスマスソングを歌い終わるとサンタが登場し、大勢の観客から歓声が上がった。

通りをパレード。

翌日は仙台中央局の「宮城県へサンタを呼ぼう」のオープンセレモニーで幼稚園児六十人と交流し、市内の児童福祉施設を訪問。午後には千人の親子を仙台国際センターに招待した交流イベントに出席、子どもたちの熱気と歓声に包まれた。

郵便局会社東北支社(上田伸支社長)では「サンタさんへ手紙を書こう」の企画を地域貢献に役立てたいと県に働きかけ、仙台市や地元テレビ局・新聞社などの後援も得て、子どもたちに夢をプレゼントする運動に取り組んだ。

県内五地区連絡会の三百六十三局は、部会ごとに地域の小学校・幼稚園を担当。局長が校長・園長に協力を依頼し、サンタへの手紙の差し出しを呼びかけた結果、三百六十を超える小学校・幼稚園などから全国一位の三万九千九百十二通が投函された。

支社では「手紙」によるコミュニケーションの素晴らしさを子どもたちに覚えてもらい、民営化によって希薄になった地域とのつながりを深くする大きなきっかけにできたとしている。